

自由民主党所属
西宮市議会議員

田中まさたけ

正 剛

<http://masatake.jp/>

田中まさたけ

検索



市政・市議会報告



遅すぎる市の政策決定

地方議員は、1人で多くの市民からご意見を伺い、先進事例等を調査して議会で政策を提言しています。市は、3000人を超える職員がいながら、議会で提言を受けた政策を検討するのに、数年を要しています。迅速な政策立案、意思決定が可能な市役所改革は、実現の兆しが見えてきません。市が変わらない今こそ、住民にとって必要な政策を実現できる議会へと変わる時なのです。

税金のゆくえ

置き去りにされた行政改革。一方で、水道料金は値上げされ、市立中央病院への多額の税金の垂れ流しも、ずっと続いています。

3月議会において、18年ぶりの水道料金の値上げ(平均で約6.8%)が決定しました。市は、老朽管の更新や耐震化に要する財源を確保するためと説明しています。しかし、私は、7年前の平成21年6月市議会で、こうした事態を避けるために、アセットマネジメントと早期の効率化によって財源を確保するべきと指摘していたにもかかわらず、放置していたと言わざるを得ない状況でした。そこで、未だに同規模の他都市と比べて職員数が多くなっている状況を指摘し、一層の経営効率化を求めました。

また、市立中央病院についても、税金投入額は老朽化が進むとともに年々増加し、新年度の繰入金金は約8.3億円、施設整備に要する出資金等を合わせると12億円を超えます。そして、資金ショートを

回避するための市からの短期借入金も年間16億円となり、昨年と比較して倍増しました。

その他、現市長の公約でもあった、公立保育所の民間移管や学校給食調理業務の民間委託、高給を批判していた技能労務職のあり方についても、議論した形跡すら見えません。そして、このままでは、これまで蓄えてきた貯金が平成36年度に底を尽き、財源不足に陥る可能性があるとの見通しが示されました。(4面にグラフ)

こうして、行政改革が置き去りにされた今の西宮市政による放漫財政のツケを負わされるのは、結局市民となります。これからも、未来に誇れる西宮を皆様とともにつくるために、市に問題提起し、行政改革に関する政策も提言してまいります。

市民からの意見や要望を受け、住み続けたい文教住宅都市の実現に向けて、議会で提言した政策のゆくえ。

放課後事業

5年前に必要性を提言した「放課後子ども教室」は、「子供の居場所づくり事業」として事業展開され、大変好評を頂いています。

平成22年

平成23年

平成24年

平成27年

平成28年

●平成22年夏：保護者から留守家庭児童育成センター（以下「センター」）での4年生以上受入れの要望

●瓦木小学校での地域による先進的な子どもの居場所づくりの取り組みや千葉県我孫子市、東京都八王子市での放課後子ども教室の取り組みを視察

●平成22年12月議会の一般質問で議論
定員割れセンターでの長期休暇中の高学年受入れと全児童対象の「放課後子ども教室」の全校実施を提言

●平成23年夏休み～

安井地域で開始された「放課後子ども教室事業」に参画。児童館も安井市民館に出張協力。

●平成24年8月：児童福祉法が改正され、学童保育の受入れ対象が6年生まで拡大

●平成27年度：子供の居場所づくり事業が3校区（安井・小松・甲東）で開始。また、2センター（西宮浜・鳴尾）において、夏休みの4年生受入れ開始⇒通年受入れへ。

【平成28年度関連予算】

○子供の居場所づくり事業の実施校を増加

・5,750万円（昨年度：2,100万円）

○留守家庭児童施設（センター）管理運営

・9億9,580万円（昨年度：8億5,170万円）

この政策課題に取り組むきっかけとなったのは、保護者からの留守家庭児童育成センター（学童保育）での4年生以上の受入れに関する要望という、市民の行動でした。しかし、すぐに受け入れるには、施設面（待機児童の問題や男女兼用トイレの問題など）での課題がありました。そこで、共働き世帯のみならず、全ての子どもを対象にした子どもの居場所、遊び場となりうる「放課後子ども教室」を全校で実施することにより、子供の居場所を確保することを提案しました。そして、私は、安井小学校区の地域の方々のご協力を得て、夏休みの事業を中心に、放課後子ども教室事業に携わってきました。

提言から5年、ようやく始まった市の「子供の居場所づくり事業」のモデル校に安井小学校も選定され、大変好評を頂いています。そして、平成28年度からは、さらに実施校が増加します。市民の行動が市政を動かした結果と夸えています。

交通政策

8年前から必要性を訴え続けた総合交通戦略がついに完成。
市内の交通環境の向上に向けて動き出します。

平成20年

平成25年

平成28年

●平成20年12月議会一般質問で議論
市の交通政策の明確化と総合交通計画の策定を提言

●平成25年度：西宮市総合交通戦略の策定業務着手（平成25年11月：国会にて、交通政策基本法が成立）

●平成28年2月：西宮市総合交通戦略が完成

【平成28年度関連予算】

○交通政策関連検討業務

・1,500万円（昨年度：250万円）

○バス関連助成事業（さくらやまなみバス運行補助等）

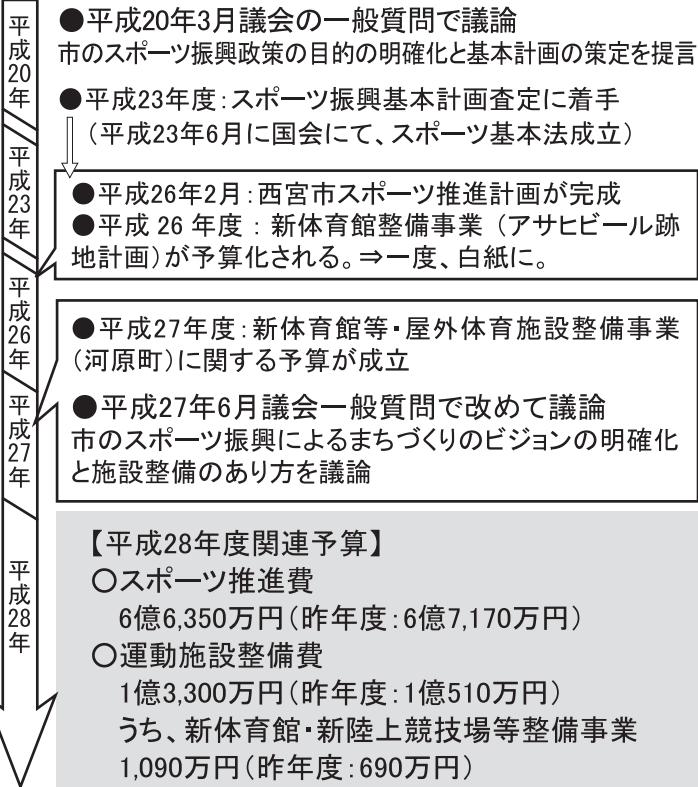
・8,280万円（昨年度：9,320万円）

交通環境は住環境の大きな要素の一つですが、市には明確な交通政策がなく、バス交通も、民間事業者に放任してきました。そして、コミュニティバスの導入や新駅の設置、バリアフリー化や交通安全、渋滞対策や道路整備が、バラバラに議論され、課題解決を遅らせてきました。

議会での提言から約7年、ようやく、「西宮市総合交通戦略」が完成し、課題解決に向けて動き出します。高齢化・人口減少時代を見据えた交通環境の整備に向け、皆様からの情報収集に努め、重点的に取り組みます。

スポーツ政策

陸上競技場・中央体育館の建替えに関する議論を通じて、スポーツ政策のあり方の再検討が必要です。



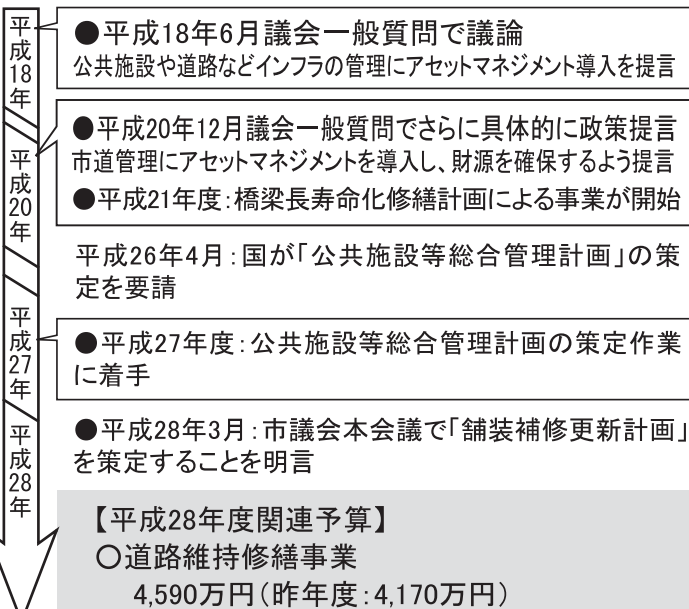
市には、甲子園球場という国を代表するスポーツ施設が立地しながら、明確なスポーツ政策・ビジョンがありませんでした。そして、先人が作った公共スポーツ施設を漫然と運営することに、スポーツ予算のほとんどを費やしてきました。ですので、まずは、文教住宅都市の魅力向上につながるような市のスポーツ政策を確立し、スポーツを通じたまちづくりを計画的に推進すべきと提言してきました。その結果、スポーツ推進計画が策定され、スポーツ政策に関する議論が活性化しつつあります。

現在は、スポーツ政策の中心的な役割を果たすべき「新体育館・新陸上競技場の整備」について議論が始まっています。



安全対策

道路舗装の維持管理について問題をいち早く指摘。予防修繕による道路アセットマネジメントで、事故の未然防止を!



耐用年数が10年と言われる道路舗装の更新が、100年に1度のペースでしか行われていないことから、今後、一時期に補修が集中して現在の補修予算の数倍となり、補修対応が困難になる危険性があることを指摘しました。そして、道路アセットマネジメントを実施することで、道路の安全性を向上するとともに、補修財源の平準化によって、財源を確保するよう提言しました。

提言から約10年、ようやく平成28年3月議会で、舗装補修更新計画の策定に着手する方針を明らかにしました。

今後も、適切なインフラ管理について、問題提起、政策提言してまいります。

始めはないがしろにされた政策も、数年後には、主要な政策となっています。市の政策立案・意思決定は遅すぎるのです。

西宮市の財政は大丈夫なの？② 将来への投資 ～平成28年度予算より～

前号では、税収の推移について掲載しましたが、今回は、将来への投資について取り上げます。

投資的経費は、主に公共施設などの建築物や道路・公園などインフラの整備に要するもので、将来世代に資産を残すことにもなります。平成28年度は、全体予算の7.6%となりました。

そして今後5年間で、

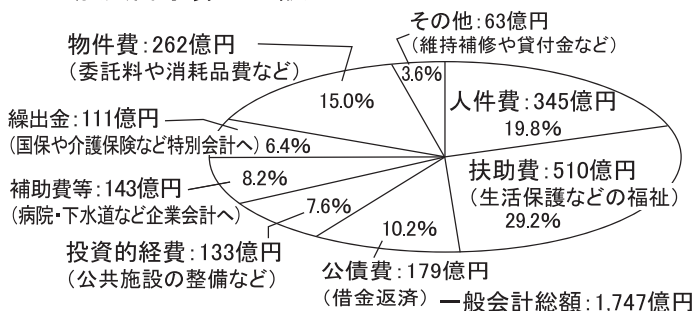
- ・第二庁舎(危機管理センター)整備事業
- ・新体育館・新陸上競技場等整備事業
- ・小学校校舎増改築事業(香櫨園・春風・安井など)
- ・保育所／留守家庭児童対策施設整備事業
- ・総合福祉センター等福祉ゾーン再整備事業
- ・瓦木消防署甲東分署／西宮消防署建替え事業
- ・西宮浜総合公園・御前浜公園整備事業
- ・市営住宅(甲子園春風団地)再整備事業

などの大型公共事業が予定されており、平成28年度予算には、これらの基本計画の策定や設計な

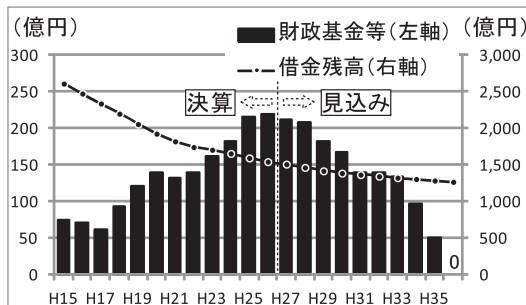
どに要する経費が盛り込まれました。これら以外にも、雨水対策や大規模な道路改築事業などの継続的なインフラ整備も進められ、さらに、阪急神戸線連続立体交差事業や新病院建設など近い将来に多額の投資を要する事業も本格的に検討されることになりました。

私が10年以上も前から必要性を強く主張してきた「公共施設マネジメント」は、公共建築物の総量縮減等の方針が5年前に示されたものの、未だ具体化された全体像は示されていません。その間にも、老朽化したインフラの再整備は進めなくてはならないことから、もっと迅速な政策立案と意思決定が必要なのです。これからも、市の資産を後世への負の遺産とすることにならないよう、皆様にとともに考え、行動してまいります。皆様からの疑問、ご意見もお待ちしております。

■一般会計予算の内訳(平成28年度)



■財政基金等(貯金)の推移



発行責任者
田中正剛 たなか まさたけ
昭和50年7月生まれ/大阪府立四条畷高等学校、神戸大学工学部卒業/元市会議員事務所に4年間勤務/平成15年4月に西宮市議会議員選挙初当選(27歳)
■政党:自由民主党 ■現在の担当常任委員会:建設常任委員会 ■市議会での主な役職:建設常任委員会副委員長(1期2年目)、厚生常任委員会委員長(1期3年目)、西宮市監査委員(2期1年目)、フレンテ問題特別委員会委員長(2期3・4年目)、病院問題特別委員会委員長(3期1・2年目)、阪神水道企業団監査委員(3期3年目)、副議長(3期4年目)

**過去発行分のチラシも是非ご覧ください！
ご連絡頂きましたらお届け致します。**



○第45号 「お役所仕事」のツケ

- ・掲載内容: 保育所不足問題/学級崩壊・不登校問題/防犯対策/介護予防など

○第44号 納めた税金がどのように使われているのか。

- ・掲載内容: 福祉関連経費/交通政策/水道料金の値上げ/アセットマネジメントなど